

石川県金沢市

中心市街地活性化基本計画

【4期計画：令和4年4月～令和9年3月】

【目指す中心市街地の都市像】

多様性と包摂性の確保により
住む人と訪れる人が「しあわせ」を共創する持続可能なまち

【金沢市の概要】 人口449,864人(R3年4月1日現在※住民基本台帳より) 面積468.64Km²

・加賀一向一揆の拠点となった金沢御坊を中心にまちがつくられた。

・江戸時代には加賀百万石の城下町として繁栄。戦災や自然災害をうけることなく、金沢城跡を中心に藩政期の都市構造が残る。日本海側の中核都市として発展。

【中心市街地の課題等】

1) まちなかの定住人口の減少

45歳未満人口について、過去5年間を見ると、令和元年度より年間社会動態はプラスに転じたものの、自然動態と合わせた全体では、一貫して減り続けている。

2) まちなかに訪れる人の減少

賑わい施設の不足や交通渋滞、公共交通の利便性の低さなどが理由で、休日、平日ともに外出先として中心市街地を選択する人の割合が少ない。(eモニターアンケートによると全体の約20%)

3) 不確実性への対応力の低さ

外国人観光客や、新幹線を利用した遠方からの来街者への依存度が高まると、感染症の世界的な流行や大規模自然災害等が発生した際の国内外からの来訪者の減少が、まちなかの賑わいの消失に直結する。

【中心市街地活性化の方針】

【基本方針①】住む人にも訪れる人にも快適で楽しいまちづくり

目標：まちなかの定住者を増やす

(中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態) 全27事業

移住支援策を充実させるとともに、インクルーシブ公園、特別支援教育SC、小中学校やこども図書館の整備等を通じ、子育て世代をはじめとして、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進する。

目標：ウォーカブルなまちなかを形成する

(主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量) 全27事業

駐車場や空き家などの賑わい施設への転換、歩行空間の創出・充実、河川や用水等の水辺を活かした賑わいの創出、良好な景観の形成などを通じて、訪れ、滞在したくなるまちづくりを推進する。

【基本方針②】人も地球も元気になるまちづくり

目標：公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える(まちなかにおける自動車分担率)

全13事業

バス、シェアサイクル等公共交通の利用環境(MaaS含む)を充実させることにより、まちなかを訪れる手段に占める自家用車の割合を下げる。このことにより、CO2排出量や交通事故の危険性が減少し、人にも地球にも優しいまちの実現につなげる。

【基本方針③】文化やまちの個性を磨き高めるまちづくり

目標：歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける(市文化施設(14施設)と金沢未来のまち創造館の利用者数) 全48事業

これまでに培われてきた歴史・文化を守り、磨き高めるとともに、最先端の技術等を活用し、それらに付加価値を与えたり、新たな文化を創出する。またそれらの価値を広く市民に伝え、金沢のまちの価値を再認識し、親しんでもらうためのイベント等を開催する。

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
まちなかの定住者を増やす	中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態	▲15人/年 (H29-R2平均)	+15.5人/年 (R8)	+60人/年 (R8)
ウォーカブルなまちなかを形成する	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量	59,155人 (R2)	103,187人 (R8)	103,600人 (R8)
公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える	まちなかにおける自動車分担率	45% (H30)	45% (R8)	42% (R8)
歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける	中心市街地の市文化施設(14施設)と金沢未来のまち創造館の利用者数	171,206人 (R2)	338,887人 (R8)	357,000人 (R8)

【前計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値 【全て未達成】
まちなかの定住者を増やす	中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態	+94人/年 (H24-27の平均)	+156人/年 (H29-R3平均)	▲15人/年 (H29-R2平均)
	まちなか住宅支援制度の活用による県外からの移住者数	23人/年 (H27)	38人/年 (H29-R3平均)	10人/年 (H29-R2平均)
幅広い年代を対象とする魅力ある商業環境を作る	商店街店舗の新規出店数	21店舗 (H27)	28店舗 (H29-R3平均)	18店舗 (H29-R2平均)
公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える	バス乗客者数	80,466人/日 (H27)	82,650人/日 (R3)	50,050人/日 (R2)
歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける	中心市街地の市文化施設(14施設)の利用者数	338,677人 (H27)	393,000人 (R3)	171,206人 (R2)
	外国人入り込み客数	256,000人 (H27)	400,000人 (R3)	75,544人 (R2)

金沢市中心市街地活性化基本計画の事業概要

住む人にも防れる人にも快適で
楽しいまちづくり

まちなかの定住者を増やす

①片町四番組海側地区市街地再開発事業

市の二大商業地のうちのひとつである片町地区の、老朽ビル等の更新を図り、新たな住宅供給を行うとともに、商業施設・宿泊施設を整備する。



人も地球も元気になるまちづくり

公共交通を優先した
まちなかの交通環境を整える

④金沢型次世代交通サービス推進事業

金沢に相応しい次世代交通サービスの実現に向け、金沢MaaSコンソーシアムを設立するとともに、共通1日フリー乗車券アプリや自動運転等の実験を実施する。



中心市街地面積：約 860ha

中心市街地人口：53,500人(令和2年)



中心市街地全体
での事業展開：③ ④

住む人にも防れる人にも快適で
楽しいまちづくり

ウォークブルなまちなかを
形成する

②都心軸集客力向上店舗整備事業

都心軸沿い(武蔵～香林坊～片町・広坂・堅町)にふさわしく、かつ広域的な集客力がある店舗(衣服・伝統工芸品等販売、健康スポーツ関連施設、「コト消費」につながる店舗)を整備する法人に対して内外装工事費を支援する。

③公共空間利活用事業及び 犀川周辺エリア利活用

官民連携による公共空間の有効活用を促進するため、コーディネーターの配置や利活用場所の発掘と定着、利活用実験等を実施する。

文化やまちの個性を磨き高める
まちづくり

歴史文化資産を活かし
市民・来街者を引きつける

⑤金沢未来のまち創造館交流創造推進事業

令和3年夏に開館した「金沢未来のまち創造館」を拠点に、最先端技術を活用した新たなビジネスや食・工芸の付加価値の創出と子供たちの独創力の育成を推進する。

